

307号

2020年
1月

日赤みやぎ

【特集】令和元年台風19号における災害救護活動記録



▲大郷町で災害ボランティアの安全管理を行う「赤十字支援隊」

新年のご挨拶

県民のみなさまには、日頃より赤十字に対しご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年、県内にも大きな被害をもたらした台風第19号災害をはじめ、国内外で数多くの自然災害が発生しました。被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げるとともに、被災地の1日も早い復興をお祈りいたします。

日本赤十字社は、発災直後から組織の力を結集し、被災地で医療救護活動を行い、また、疲弊した行政職員等の支援者へこころのケア活動を行うなど災害救護活動を展開しました。

また、平時においても「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、救急法等の講習普及、ボランティア活動の支援、青少年の育成などを通じて人道の実現に取り組んでおります。

今後とも日本赤十字社の活動にお力添えくださいますようお願いいたします。



日本赤十字社宮城県支部
支部長 村井 嘉浩

特集

令和元年台風19号における 災害救護活動記録



宮城県支部 災害対策本部

発災直後から宮城県支部職員が各道県支部応援職員や赤十字防災ボランティアの支援を受けて連絡調整、情報整理を行いました。



▲朝・夕に全体ミーティングを行い、被災地域での日赤の動きを把握。必要な支援について協議を繰り返しました。

～支部職員の対応～

- ・県内救護活動の全体統括
- ・医療救護班の調整
- ・こころのケア活動
- ・赤十字防災ボランティア活動支援
- ・救援物資の配布
- ・災害義援金の受付

など

医療救護活動

避難所でのアセスメントや巡回診療を行い、被災地域の医療機能が回復するまでの医療体制をサポートしました。

日赤の医療救護班は、医師・看護師・薬剤師・主事などから構成されており、この災害では、仙台赤十字病院、石巻赤十字病院のほか、山形、岩手、秋田、青森、北海道各道県から派遣された医療救護班が被災地域の避難所を巡回しました。

※県内ではこころのケアを含め延べ348名派遣



▲避難所までの道が冠水し、ルートを確認し合う仙台赤十字病院の救護班。(角田市)



▲家の片づけでケガをした男の子に対応する秋田赤十字病院の救護班(丸森町)



▲避難所の快適性を高める段ボールベッドを搬入する石巻赤十字病院の救護班(丸森町)

赤十字防災ボランティア

発災直後から被災地域へ救援物資の搬送、情報整理、大郷町で災害ボランティアの安全管理の呼びかけと応急手当を行いました。

～救援物資の搬入・搬送～
要請のあった県内各地へお届けしました。



▲毛布を積み込む赤十字防災ボランティア

～大郷町「赤十字支援隊」が活動！～

災害ボランティアの方々が安全管理に気を付けながら作業を進められるように、呼びかけとケガなどの応急手当を行う「赤十字支援隊」が大郷町で活動しました。

支援隊は、赤十字防災ボランティアセンターが主体となり、傷病者の応急手当の知識と技術を持つ防災ボランティア・赤十字看護奉仕団・赤十字安全奉仕団員、情報伝達を担うアマチュア無線クラブ赤十字奉仕団員がタッグを組み、結成されました。

活動期間中、延べ103名が支援にあたり、作業中に釘を手に刺してしまったボランティアの方など延べ33名の手当を行いました。



▲ケガをしたボランティアの手当を行う赤十字支援隊(大郷町)



日赤が災害対応にあたった地域(救援物資の搬送も含む)

救援物資の搬送

避難所で過ごす方々に必要な緊急セット、安眠セット、毛布をお届けしました。即応体制が取れるよう、救援物資倉庫に物資を補充する作業も行いました。

～数字で見る救援物資搬送～

緊急セット… 660セット
安眠セット… 800セット
毛 布… 4303枚
※要請のあった各地域に搬送しております。



▲発災当日の夜、救援物資の搬送地域へ向かう途中(柴田町)



▲駐在していた自衛隊員とともに避難所へ物資を搬入(丸森町)

こころのケア

被災地で連日復旧復興に努める方々への支援者支援も併せて行いました。

日赤の看護師らで編成されたこころのケア班が、被災地で支援にあたる方々を対象に、手や背中をさすり、ほっと安らげる時間を提供しました。



▲リラクゼーション(丸森町)

災害義援金

宮城県支部に個人・法人の皆さまからお寄せいただいた義援金は令和元年11月現在で4億円にのぼります。

これらは宮城県災害義援金配分委員会を通じ、今回の災害で被災された方々へ全額届けられます。



宮城県支部のトピックス

仙台89ERSと日赤宮城県支部 共に前へ！南三陸町復興祈念ゲームを共催！

プロバスケットボールチーム仙台89ERSと日赤宮城県支部が東日本大震災からの復興を願い、11月9日（土）・10日（日）に南三陸町で行われた試合を復興祈念ゲームとして、イベントを行いました。南三陸町赤十字奉仕団員が来場者へ心も温まる豚汁を振る舞ったほか、献血や一次救命処置体験、看護師による健康相談、麗人会赤十字奉仕団によるリラクゼーション体験、災害救護活動紹介コーナーなど多くの方々にお立ち寄りいただきました。試合も白熱し、大盛況でした。

このイベントをきっかけとして、仙台89ERSでは今後も赤十字活動を応援していきます。



▲試合後、仙台89ERSの選手へ応急処置セットを贈呈しました！

仙台赤十字病院

仙台赤十字病院救護班 被災地で医療救護活動を展開！

10月12日から13日にかけて西日本から東日本の太平洋側を中心に激しい雨を降らせ、宮城県に甚大な被害をもたらした台風19号の医療救護活動として、当院では丸森町や角田市などに救護班を派遣しました。

手当・治療が必要な方への対応はもちろんのこと、訪問した避難所のアセスメント（医療の必要性、環境的側面に問題ないか、配慮を要する方はいないか等々）、被災者や支援者へこころのケアを行いました。

今後も当院では日本赤十字社の使命を全うすべく、被災された皆様に寄り添える活動を展開してまいります。



▲角田中学校避難所でのアセスメント。

10年以上、温かい寄付をいただいています！

夢の会は“多くの方々からいただいた恩恵への恩返し”を目的とした団体で、その趣旨に賛同された皆様によるボランティア、ショーを活動の柱とされています。

第11回目となる今年は、「舞の競艶」と銘打ち、11月29日に仙台銀行ホール イズミティ 21（仙台市泉区）にて、チャリティーショーが行われ、その収益金全額（206,936円）を赤十字活動資金としてお寄せいただきました。平成20年からの累計で280万円以上のご協力をいただいております。

長い間ご支援を続けていただき、深く感謝申し上げます。



▲新たに夢の会代表になられた高谷様からご寄付いただきました。

石巻赤十字病院

大規模地震災害実働訓練を実施！

11月9日（土）、職員の防災意識の高揚や災害対策マニュアルの検証を目的に大規模な災害訓練を実施しました。

台風19号の災害対応直後ではありましたが、訓練には、当院職員や自治体、医療機関、民間企業など35機関から約800名が参加。

今回は、宮城県沖を震源とするマグニチュード8.2、最大震度6強、多数の負傷者が発生という想定で行われ、本番さながらの緊迫した雰囲気の中、災害対策本部の立ち上げや各エリアの運用、関係機関との連携体制の確認などを検証しました。

今回の訓練で見えた課題を元に、災害時に迅速に対応できるよう今後もより良い体制づくりに努めていきます。



▲重症患者の治療を担う赤エリア。次々に患者が運ばれ、緊迫した雰囲気が漂います。

「社資功労者感謝のつどい」が開催されました！

12月2日（月）、ホテル白萩（仙台市青葉区）を会場に「令和元年度日本赤十字社宮城県支部社資功労者感謝のつどい」が開催されました。

この式典は、日頃から日本赤十字社の活動を資金面から支えてくださる社資功労者の皆さまの顕彰を目的として毎年開催しています。

今年度は、81の個人・法人の皆さまが日本赤十字社有功章（金色・銀色）、社長感謝状、そして国の表彰である紺綬褒章と厚生労働大臣感謝状を受章され、当日式典に出席した21名の皆さまへ伝達されました。

この度のご受章をこの紙面をお借りしてお祝い申し上げますとともに、これまでのご支援に対し、深く感謝申し上げます。



▲受章者を代表して、曾根 睦子様よりご挨拶いただきました。

宮城県赤十字血液センター

「おながわ秋刀魚収穫祭2019」会場内で献血実施！

9月29日、女川町での大イベント「おながわ秋刀魚収穫祭2019」会場内で、献血を実施しました。例年、献血者には秋刀魚が振舞われ大好評でしたが、残念ながら今年はお祭りに間に合う秋刀魚の水揚げがありませんでした。

しかしながら、おながわ秋刀魚収穫祭実行委員会・女川ライオンズクラブのご厚意により「さんま昆布巻き」が献血者全員に振舞われ、198名の笑顔がこぼれました。



▲イベントも献血も大成功に終わった関係団体の皆さまと。

参加者募集中

おしらせ



チャレンジ防災セミナー



～災害時に自分の身を守るスキルを身につけませんか？～

赤十字を身近に感じてもらいながら、「いのちと健康を守る」防災の知識や災害時に役立つ手当などを楽しく学べます！ご興味のある方は、ぜひ、ご参加ください。

【内 容】

みんなで考えよう！『防災クイズ』
地域で考えよう！『災害時の備え』
みんなで作ろう！『非常用炊き出し』
みんなで習得しよう！『災害時に役立つ手当』 など



【開催日時・場所】

令和2年3月7日(土) 10:00～15:00
宮城県赤十字血液センター

【参加対象・募集人数】

宮城県内にお住まいの方30名

【お申し込み】

申込開始日 令和2年2月3日(月)(先着順)
申込方法 下記担当課までお電話による申込み



TEL 022-271-2253

日本赤十字社宮城県支部 事業推進課
※8:30～17:00(土日祝祭日を除く)

お役立ち情報：非常食かんたんレシピ



*** アネちゃんの ***
かんたんごはん帳
Vol.17
ツナと卵の炒飯風ごはん

アネ(牧野純子)
イラストレーター・FCAJ認定フードコーディネーター
仙台市在住
赤十字救急法救急員 赤十字防災ボランティアリーダー
出版社、CM制作会社を経てフリーランスに。著書に
「アネちゃんのごはんいっぱい幸せ」(主婦と生活社)、
「夜にちよこっとココットごはん」(朝日新聞出版)がある。

* 材料(2人分)

無洗米…1合(180ml分・150g)
水…250ml
A
ツナ…1/2缶(約35g)
粒コーン…大さじ3(30g)
粒コーンの汁…大さじ1(15ml)
※ない場合は水を大さじ1(15ml)増量する
玉ねぎ(1cmの賽の目切り)…1/8個
卵スープ(フリーズドライタイプ)…1包

* 作り方

1. 袋に無洗米、水を入れる。
2. 1にAを入れ袋の口をゴムバンドでしっかり止める。
3. 鍋にたっぷりの水と、1を入れ、沸騰してから30分加熱し、取りだして15分蒸らす。
4. お皿に盛り付け、好みに塩・こしょう(分量外)をかける。



日持ちのよいフリーズドライタイプの卵スープは、スープとしていただくのはもちろんのこと、アレンジ次第で色々使えて便利♪ツナやコーンの缶詰があれば、袋で簡単に炒飯風ごはんが作れます。使う袋は、ハイゼックス個包装袋や、ポリ袋。熱には強い素材ですが、鍋底に密着すると破損する場合があるので、ザルを入れる等して気を付けましょう。また、材料を袋に入れる順番も大事なポイント。まず最初にお米と水を、それからその他の材料を加えます。お米が吸水しはじめる前にツナの油分がお米にまわってしまうと、うまく吸水されず、ふっくらと炊けません。お米はゆっくり温度が上がることでおいしくなるので、水から加熱するのが私のオススメ。沸騰したお湯に入れるなら、加熱前に30分程吸水させるとより美味です。



日本赤十字社 宮城県支部
Japanese Red Cross Society

〒981-0914 宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町4-17(宮城県仙台合同庁舎8階)
TEL: 022-271-2252 FAX: 022-275-3004
MAIL: info@miyagi.jrc.or.jp HP: http://www.miyagi.jrc.or.jp/

